

[ 成果情報名 ] ニホンナシ「幸水」の徒長枝摘心による花芽着生の促進

[ 要約 ] 「幸水」の側枝上の先端を除く徒長枝を開花30～45日後に3～5葉残して摘心すると残した徒長枝基部の葉腋に充実した花芽を着生しやすい。

[ キーワード ] 幸水、徒長枝摘心、花芽着生

[ 担当 ] 長崎果樹試・落葉果樹科

[ 連絡先 ] 電話0957-55-8740、電子メール60a36@pref.nagasaki.lg.jp

[ 区分 ] 果樹

[ 分類 ] 普及

---

[ 背景・ねらい ]

ニホンナシ「幸水」は樹勢が強いと新しょうの伸長が旺盛で過繁茂になりやすく、花芽着生や短果枝の維持がやや困難である。花芽着生促進のためには積極的な予備枝せん定や生育期の新しょうの誘引が必要である。従来は夏季せん定で間引く側枝上の徒長枝を生育期に3～5芽残して摘心を行い、徒長枝を短果枝化し、夏季せん定を省略することを目的に行った。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1．摘心処理により、側枝1本当たりの徒長枝数は減少する。1側枝当たりの摘心処理枝数は4～5本であり、摘心処理した枝の約60%の基部に1個以上の花芽が着生する（表1）。
- 2．摘心後の葉腋に花芽を着生し、通常の短果枝に着生した花芽と同等の大きさである（写真1）。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1．樹勢が強い樹では再伸長が多い。
- 2．摘心時期が遅れると、花芽着生の効果は劣る。

[ 具体的データ ]

表 1 摘心処理による花芽着枝率及び再伸長枝率

処理	側枝長 (cm)	新しょう長 <sup>z</sup> (cm)	徒長枝数 <sup>y</sup> (本/側枝)	摘心数 (本/側枝)	花芽着生枝率 <sup>x</sup> (%)	再伸長枝率 (%)
摘心	128.3	46.3	3.2	4.0	61.7	31.4
無処理	135.2	41.1	5.2	0	0	0

<sup>z</sup> 側枝先端の新しょう長

<sup>y</sup> 側枝先端の新しょうを除く20cm以上伸長した新しょう

<sup>z</sup> 摘心処置により徒長枝基部に花芽が着生した枝の割合。



写真 1 摘心処理により着生した花芽

[ その他 ]

研究課題名：新整枝法による落葉果樹管理作業の軽労化と多収技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2002～2003年度

研究担当者：田中 実、寺井理治、谷本恵美子